

資料No.			資料名	数量	西暦	月	日	和暦	和暦年	内容	作成者	使用者	サイズ(単位:cm)	状態	備考
00003	0001	0000	知行目録	2	1646	4	5	正保	3	片倉小十郎から合3貫500文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎(印)	黒澤源之丞	W46/H32	—	包紙(旧No.1212-2)あり。包紙上書「黒澤源之丞」。
00003	0002	0000	知行目録	2	1673	10	22	延宝	1	片倉小十郎から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎口口(印)	黒澤源太郎	W48/H33	—	包紙(旧No.1217-2)あり。
00003	0003	0000	知行目録	2	1686	4	11	貞享	3	片倉小十郎村長から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎村長(印)	黒澤源太郎	W47.8/H33.5	—	包紙(旧No.1218-2)あり。
00003	0004	0000	知行目録	2	1688	6	20	貞享	5	片倉小十郎村長から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎村長(印)	黒澤吉右衛門	W47.5/H33.5	—	包紙(旧No.1215-2)あり。
00003	0005	0000	知行目録	2	1732	7	22	享保	17	片倉小十郎村定から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎村定(印)	黒澤里右衛門	W47/H32.6	—	包紙(旧No.1211-2)あり。
00003	0006	0000	知行目録	2	1761	12	15	宝暦	10	片倉小十郎村廉から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎村廉(印)	黒澤源市郎	W47.5/H34	—	包紙(旧No.1219-2)あり。
00003	0007	0000	知行目録	2	1770	2	15	明和	7	片倉小十郎村寿から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。「明和五年五月廿一日 片平弥市郎」と書かれた断簡(後欠)が挟み込まれている。	小十郎村寿(印)	黒澤理右衛門	W46.5/H33.8	—	包紙(旧No.1216-2)あり。
00003	0008	0000	知行目録	2	1807	6	15	文化	14	片倉小十郎景貞から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎景貞(印)	黒澤理右衛門	W47.5/H34	虫損あり	包紙(旧No.1214-1-2)あり。
00003	0009	0000	知行目録	2	1818	10	15	文政	1	片倉小十郎宗景から合3貫文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎宗景(印)	黒澤源市郎	W47.5/H34	—	包紙(旧No.1213-2)あり。
00003	0010	0000	知行目録	2	1864	11	28	元治	1	片倉小十郎邦憲から合3貫200文の知行を宛がわれている。折紙。	小十郎邦憲(印)	黒澤佐藤右衛門	W47.8/H36	—	包紙(旧No.1220-2)あり。
00003	0011	0000	観音経	1	1781	4	吉	天明	1	妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五。折本。天明元年再刻。	京都 経師巻香軒板	—	W6/H16	—	包紙(旧No.1195-2)あり。
00003	0012	0000	片倉小十郎景綱記	1	—	—	—	(近世)	—	片倉景綱の生涯を記す。伊達政宗公との関係など。朱筆による取消線が数か所あることから、下書きか。和綴。	—	—	W19/H27.5	—	—
00003	0013	0000	日置流弓之巻(千段巻 弓図)	1	1750	11	15	寛延	3	弓10張の特徴・射方などの奥義を記す。寛延3年以降、明和4年には片倉小十郎村廉から菅野文庫へ、寛政3年には片倉小十郎村典から菅野仲へ、天保12年には片倉伊豆から黒澤佐藤右衛門の手に渡った。	波量軒一源居士寒河久兵衛尉忠辰・平塚勲右衛門・葛岡源七郎	菅野仲	W570.6/H18.2	ゼロハンテープによる修理痕、継はがれあり。卷子。	資料名は題箋による。
00003	0014	0000	今枝流立合之大目録	1	1750	7	27	寛延	3	今枝流の極意を記す。末尾に今枝弥右衛門尉良重・今枝四郎左衛門尉良正らが連署している。	[印]●憲(花押)	黒澤源一郎	W316.6/H18.0	折れあり。卷子。	—
00003	0015	0000	日置流射形図	1	1779	9	2	寛政	1	射形を図示。文章はなし。吉田雪荷・吉田六左衛門ほか4名の名前を記す。文化5年1月15日には片倉景貞から片平与左衛門へ、天保15年8月18日片倉景徳から黒澤佐藤右衛門へ下賜されており、黒澤家に残されたと考えられる。	小十郎[印]村典(花押)	佐藤今右衛門	W118.9/H17.8	彩色。卷子。	資料名は題箋による。
00003	0016	0000	弓場入之書	1	1783/	4	23	寛政	5	弓場入、射方などの所作について、これまで口伝で伝えられてきたものを子孫のために絵図や文書で記した小笠原備前守特長・吉田雪荷ほか8名による応永24年8月15日付の文書を、近世に写し、片倉小十郎から黒澤家に下賜したもの。	小十郎[印]村典(花押)	黒澤源一郎	W383.3/H18.2	卷子。	資料名は題箋による。
00003	0017	0000	今枝流理方之巻	1	1750	7	27	寛延	3	具足切合之事、小太刀之勝負之事など。全て口伝とあり。末尾に「理方はこれに限らず、意趣をもって新を知るべし」とある。入道清春今枝弥右衛門尉良重・入道猶無今枝四郎左衛門尉良正・入道玄剛原兵衛門尉吉辰・法名玄繁牛山半右衛門広正ほか4名が連署。	[印]●憲(花押)	黒澤源一郎	W439.8/H18.0	卷子。	資料名は題箋による。
00003	0018	0000	日置流相伝	1	1805	8	15	文化	12	日置流弓の相伝について、吉田六左衛門尉元猶から落合孫九郎宗親へ、宗親から平塚勲右衛門重次へ、宗親直筆の弓の書は重次が所持していたが、重次から葛岡源七郎成倫へ、君命により高城宅三郎顕道へ、顕道から片倉景貞へ、景貞からさらに代々伝わってきたと記す。天保12年8月12日には片倉景徳から黒澤佐藤右衛門に下賜されており、黒澤家に残されたと考えられる。	(片倉)景貞(花押)[印・藤原景貞]	毛利辰五郎	W130.6/H18.9	卷子。	下げ札2カ所あり。資料名は題箋による。
00003	0019	0000	日置流弓之目録	1	1783	4	23	寛政	5	あしふみ弓かまへの事、弓打ちの事など、直々の口伝も合わせて計95カ条を記す。吉田雪荷・吉田六左衛門ほか4名の名を記す。	(片倉)小十郎[印]村典(花押)	斎藤武	W270.7/H18.1	卷子。	題箋には「目録」とあり。

資料No.			資料名	数量	西暦	月	日	和暦	和暦年	内容	作成者	使用者	サイズ(単位:cm)	状態	備考
00003	0020	0000	今枝流居合相伝	1	1750	7	27	寛延	3	居合は太刀伐の根本であるとし、祖元の苦勞と極める術を記す。入道清春今枝弥右衛門尉良重ほか7名の名を記す。	[印]●憲(花押)	黒澤源一郎	W93.7/H18.0	卷子.	資料名は題箋による。糊継ぎ部分が過度に重なっている。市指定文化財。
00003	0021	0000	縄張之書	1	1783	4	23	寛政	5	射塚寸法図などを彩色にて描く。吉田雪荷・吉田六左衛門ほか4名の名を記す。少し彩色などが異なるが00003-027と同内容、末尾が異なる。	(片倉)小十郎[印]村典(花押)	斎藤武	W367.0/H18.0	卷子.	資料名は題箋による。市指定文化財。
00003	0022	0000	守札	1	1763	1	吉	宝暦	12	祈禱の際などの弓の用い方について秘密であり実子1人以外に見せてはならないと記されている。一宮随波斎・新宮兵部少輔ほか7名の名を記す。文政5年9月には宗景から毛利辰五郎へ下賜され、天保12年8月に景徳から黒澤佐藤右衛門に下賜され、黒澤家に残されたものと考えられる。	(片倉)村廉[印](花押)	二瓶十郎左衛門	W356.7/H18.0	卷子.	資料名は題箋による。市指定文化財。
00003	0023	0000	火矢次第	1	1763	1	吉	宝暦	12	塩硝・硫黄の目方を記し、雨降りなどの場合などについても詳しく記す。吉田雪荷・吉田六左衛門他3名の名前を記す。文政5年9月には宗景から毛利辰五郎へ下賜され、天保12年8月に景徳から黒澤佐藤右衛門に下賜され、黒澤家に残されたものと考えられる。	(片倉)村廉[印](花押)	二瓶十郎左衛門	W136.0/H18.0	卷子.	資料名は題箋による。
00003	0024	0000	日置流射形集	1	1825	6	吉	文政	8	射形集指矢之時調作之事・手ノ内ノ事・勝手之事・離之事などそれぞれを簡条書きに記す。この1冊は門弟子のために父子が編じたもので、他見することがないようにとある。吉田雪荷・吉田六左衛門他5名の名を記し、末尾に景貞父君と記す。	(片倉)小十郎[印]宗景(花押)	毛利伝左衛門	W426.6/H17.9	卷子.	資料名は題箋による。
00003	0025	0000	居合誓約之巻	1	1712	12	7	正徳	2	今枝流の立合・理方の相伝などについての起請文。正徳2年の新田七郎治が石田右右衛門に宛ててから、宝暦14年の黒澤弥七郎まで122名程の人が年月日と署名。	新田七郎治ほか	—	W342.0/H18.1	卷子.	資料名は題箋による。
00003	0026	0000	日置流弓矢之巻	1	1805	3	15	文化	2	中刺・副箭など弓矢についてそれぞれ図示し、特徴・矢羽根の種類などを記す。末尾に相伝の流れと、この件を他見などしないように記す。吉田雪荷・吉田六左衛門他4名の名を記す。弘化2年には伊豆景徳から黒澤佐藤右衛門へ下賜され、黒澤家に残されたものと考えられる。	(片倉)小十郎[印]村典(花押)	片平一谷	W400.0/H18.1	卷子.	資料名は題箋による(但、黒ペン字)。
00003	0027	0000	日置流射塚之巻	1	1783?	—	—	寛政	5	射塚寸法図などを彩色にて描く。吉田雪荷・吉田六左衛門ほか5名の名を記す。少し彩色などが異なるが00003-021と同内容、末尾が異なる。	—	—	W236.5/H18.0	卷子.	軸に仕立てられているが後欠カ。資料名は題箋による。前部に茶色のシミあり。
00003	0028	0000	地祭之書	1	1815	8	15	文化	12	地祭之次第、縄張之事、方角之事を記す。上古以来口伝であるため、他人に授けてはならないこと、口伝を家の庭訓としてきたため、筆墨のないものについては子孫が書き記したことを記す。	景貞[印]・藤原景貞(花押)	横山助左衛門	W384.6/H17.5	卷子.	資料名は題箋による。
00003	0029	0000	日置流的絵	1	—	—	—	—	—	様々な大きさ、形の的を図示する。また、どのような時に、どのような的を使用するのかなども記す。通矢など行事の時に用いる旗や、矢・矢筒・弓台などについても合わせて図示する。末尾に「立弓」と記した後、図・文字がないことから、途中で終わっているようである。	—	—	W881.0/H16.5	継紙。最初・末尾に厚紙での裏打ちあり	資料名は題箋による。
00003	0030	0000	日置流 射術集儲言	1	1721	6	15	享保	6	指矢弓之事・弦の次第の事・弓ひけの事などについて簡条書きで記す。後部には、立巻菊之図・立巻菊台之図など、射術の際に必要な道具を図示する。朱筆あり。宝暦12年に片倉村廉から二瓶十郎右衛門へ下賜され、文政5年に宗景から毛利辰五郎へ下賜、天保12年に景徳から黒澤佐藤右衛門へ下賜され、黒澤家に残されたものと考えられる。	葛岡源七郎成倫	—	W256.6/H18.0	折本.	資料名は題箋による。
00003	0031	0000	日置流的之次第	1	1783	4	23	寛政	5	的之次第・射之事・矢代勝負付ル事などについて簡条書き、また図示する。末尾に、「当流的射之用法也」とし、門弟子のために書をもって授ける、と記す。葛岡源七郎・同 利源太の名あり。	(片倉)小十郎[印]村典(花押)	斎藤武	W389.6/H18.1	折本.	資料名は題箋による。
00003	0032	0000	日置流矢之事	1	1763	1	吉	宝暦	12	弓矢について簡条書きで記す。末尾に吉田雪荷・吉田六左衛門他3名の名を記す。天保12年に景徳から黒澤佐藤右衛門に下賜されており、黒澤家に残されたものと考えられる。	(片倉)村廉[印](花押)	二瓶十郎右衛門	W257.0/H18.0	折本。表紙に貼った題字と中身が天地逆	資料名は題箋による。市指定文化財。

資料No.			資料名	数量	西暦	月	日	和暦	和暦年	内容	作成者	使用者	サイズ(単位:cm)	状態	備考
00003	0033	0000	日置流非氣目極意	1	1730	7	25	享保	15	祝言屋越之挽妻(ひきめ)事など、様々な場での墓目について記す。末尾に「佐々木六角之家伝ニ成、私大望ニ依申受」けたものを相伝する旨を記す。	信夫伝作	—	W22.7/H17.0	横半帳。ただし、綴じたのは近年カ	後年になって表装がつけられており、もともと題字はないようである。